

第6学年 音楽科 学習指導案

＜本時の主張＞

児童は、前時に『I can't turn you loose』の即興的な表現で演奏される中間部12小節の旋律を、「問いと答え」の音楽の仕組みを生かしてつくっている。12小節の中で和音が変わり、それによって音楽が盛り上がり、終わる感じになったりするが、その和音の響きの移り変わりを旋律づくりに生かすとよいことには気付いていない。

そのような児童に次のような手だてを講じる。

- ① 中間部12小節の伴奏を聴き、和音の響きの移り変わりをよく感じ取り、それによって盛り上がる場所はどこか考えるようにする。
- ② 教師のモデル演奏を聴き、和音の響きの移り変わりに合わせて旋律をどのように工夫しているか聴き取り、旋律づくりの工夫のヒントとなるようにする。

このようにすることで、児童は、和音の響きの変化を旋律づくりと結び付けて考えるようになり、どのように旋律を工夫すればよいか見通しをもち、自分たちの旋律を見直し工夫することができるようになる。

1 題材名

和音の響きの移り変わりを感じ取って音楽をつくろう

2 題材の目標

和音の響きの移り変わりを感じ取り、「問いと答え」の音楽の仕組みを生かしてブルース音階による音楽をつくることができる。

3 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①和音の響きの変化や問いと答えの音楽の仕組みに着目しながら意欲的に歌っている。【歌唱】 ②和声の響きを生かしながら旋律をつくる学習に意欲的に取り組もうとしている。【音楽づくり】 ③自分たちが考えた中間部を入れて全体を通して合奏する学習に意欲的に取り組もうとしている。【器楽】	①「問いと答え」の音楽の仕組みを生かし、どのような「問いと答え」の音楽にするかについて自分の考えや思いをもっている。【音楽づくり】 ②和声の響きを聴き取り、その働きが生み出す音楽の盛り上がりを感じ取りながら、どのように音楽をつくるかについて意図や見通しをもっている。【音楽づくり】	①リズム伴奏・低音伴奏に合わせて演奏している。【器楽】 ②和声の響き、「問いと答え」の仕組みを生かし、見通しをもって演奏している。【音楽づくり】	①『Shake』『I can't turn you loose』の和音の響きの移り変わりやブルースのリズムを聴き取り、そのよさや面白さなどを感じ取りながら聴いている。 ②『大きな歌』『Oh happy day』『あまちゃんオープニングテーマ曲』『中国の踊り』の「問いと答え」を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら特徴を理解して聴いている。 ③『コラール』の和声の響きの移り変わりを感じ取りながら聴いている。

4 題材と指導の構想

(1) 児童の実態

5年生から持ち上がって担任しているクラスである。5年生になるまで音楽づくりの学習の経験はほとんどなかったため、授業には、手拍子回しやリズムリレーなど即興的な表現による音楽ゲームの活動を多く取り入れ、自分でリズムをつくったり、それを一人で表現したりする学習活動を多く経験させるようにした。音楽づくりの学習は、系統性を重視し、リズムをつくるなどの易しい音楽づくりから始め、徐々に旋律をつくる難しい音楽づくりへと進むようにしてきた。児童が経験した音楽づくりの題材としては、「レッツ！ボディパーカッション～からだの音で音楽をつくろう！～」「トガトンで音楽をつくろう！」「5つの音で音楽をつくろう」「リズムアンサンブルをつくろう」がある。

(2) 題材について

本題材の学習指導要領との関連事項は、次の通りである。

A 表現
(1) 歌唱
エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
(2) 器楽
ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。
(3) 音楽づくり
ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。
B 鑑賞
イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

本題材では、和音の響きの変化を聴き取り、それによって楽曲の気分が変化することを感じ取りながら、ブルースの形式やブルース音階を生かして音楽づくりをする学習を行う。

音楽づくりについて

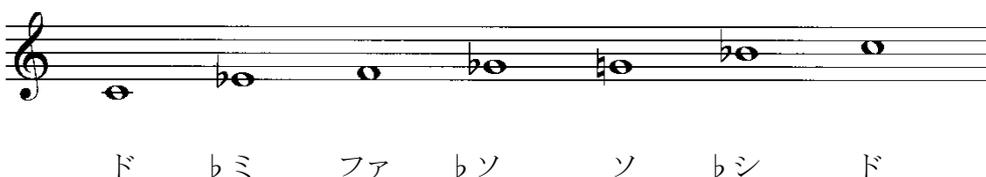
○『I can't turn you loose』の中間部Bの12小節の旋律をつくる。中間部は、次のようなブルースの基本的なコード進行で作られている。これは、循環コード(=2つ以上の和音の組み合わせが一巡りして何度も繰り返す和声進行)であるため、12小節を繰り返して演奏することが可能である。

※中間部B 12小節のコード進行

C7-C7-C7-C7-F7-F7-C7-C7-G7-F7-C7-C7
低音 ド ド ド ド ファ ファ ド ド ソ ファ ド ド

○旋律は、第3音(ミ)、5音(ソ)、7音(シ)が半音下がったブルースの音階を生かして作るようにする。

※ブルース音階



○ブルース音階の中から音を探し、教師の「問い」（4拍分）の即興に対して模倣で「答え」を演奏したり、模倣でない「答え」で即興的に答えたりなど即興的な表現を十分に行い、ブルースの音階に慣れたり、ブルースのリズムの特徴や音楽の雰囲気を感じ取れるようにする。初めは、ド1音だけ、慣れたら隣の音の♭シと2音で、などのように少しずつ使う音を増やしていく。また児童同士でもペアになり、互いに「問いと答え」で即興的な演奏を行うようにする。その際は、和音伴奏を自動演奏で流し、和音の響きを聴きながら演奏を行う。

○本題材において、ブルースのコード進行やブルース音階を使うことのよさは次のような点であると考えられる。ブルースの基本的なコード進行は、1 2小節を単位としてC 7（ドミソ♭シ）の和音から始まり、F 7（ファラド♭ミ）G 7（ソシレファ）と進んで再びC 7の和音で終わるため、始まりと終わりを感じ取りやすい。1 2小節をどのように始めて盛り上がりをつくり、どのように終わるかというように、見通しをもって音楽をつくる活動に適している。また、ブルース音階はハ長調、ヘ長調などの調性のある音階に比べて旋律をつくる際の制約が緩やかであり、まちがいを恐れず自由に音楽づくりに取り組むことができる。

○『I can't turn you loose』の中間部B 1 2小節を3～4人のグループでつくる。ペアになり「問いと答え」の音楽の仕組みを使ってつくっていく。

教材について

『こげよマイケル』

原曲はスピリチュアルで、アメリカ南部の大農園で働くアフリカ系アメリカ人たちが、仕事に使う小舟をこぐときに歌っていたと言われている。「問いと答え」の音楽の仕組みでできている。「ハレルヤ」の部分はC F C、C G Cの和音の響きの移り変わりを感じ取ることができる。

『Shake』 サム・クック作曲・歌

ブルースの基本的なコード進行でつくられている。リズムカルで明るく、元気のいい曲である。シャッフルのリズムやシンコペーションが多く使われ、ブルースの曲の雰囲気を感じ取るのに適している。

『I can't turn you loose』 オーティス・レディング作曲・歌

合奏や音楽づくりで用いる楽曲は、塩川延明の編曲によるものである。合奏部分のA（テーマ1・テーマ2）に続き即興的表現で演奏するB、その後A'（テーマ2）、コーダという構成になっている。（ABA' コーダ）コーダに行く前にBにもどってもよい。原曲は、中間部Bのコード進行はブルースコードで合奏用に編曲されたものと同じだが、長さが倍になっている。

同じリズムで繰り返される低音が力強く聴こえ、和音の移り変わりを聴き取りやすい。明るく元気のいい曲であり、合奏部分のテーマ1とテーマ2は、技能的に易しく取り組みやすい。

『カンタータ1 4 7番から コラール』 バッハ作曲

「主よ 人の望みの喜びよ」のタイトルで広く知られる。オーケストラの音色に混声合唱による歌声が溶け込むことで、豊かな響きで和音の移り変わりを聴き取り、和音の美しさを感じ取ることができる。

次の4曲は、「問いと答え」の音楽の仕組みを使ったモデルとして聴かせる。

『大きな歌』 中島光一作曲

「問い」に対して同じ旋律の「答え」でつくられている。

『Oh happy day』 ゴスペルソング

「問い」の音の動きが大きいのに対して「答え」の音の動きは少なく、低音で答えている。

『あまちゃんオープニングテーマ曲』 大友良英作曲

いろいろな音の高さや音色で自由に答えている。

『くるみ割り人形から 中国の踊り』 チャイコフスキー作曲

「問い」は高音で軽やかなリズム。「答え」は低音で音の動きが少ない。

5 題材の指導計画 (全8時間)

時	学習のねらい(○)と主な活動内容 (・)	評 価				
		関	創	技	鑑	評価規準 (評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○『こげよマイケル』を歌い、和音の響きの変化を聴き取り、形式は「問いと答え」になっていることに気付く。 ・「ハレルヤ」の部分を合唱したり楽器で和音の響きを確認したりし、和音の響きの変化を聴き取る。 ・「問いと答え」を交代で歌う。 	○				①『こげよマイケル』の和音の響きの変化や「問いと答え」の音楽の仕組みに着目しながら意欲的に歌っている。【関①—歌唱】(観察)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ブルースの基本的なコード進行で作られている『Shake』『I can't turn you loose』を聴き、和音の響きの移り変わりやブルースのリズム・音楽の雰囲気を感じ取る。 ・身体でリズムを取りながら聴き、ブルースのはねるリズムの楽しさを感じ取る。 ・和音が変化する所で手を挙げたり、どの和音か確かめたりしながら聴く。 ・ブルース音階について知り、音階を楽器で弾いたり、即興的に短い旋律をつくって弾いたりする。 				○	①『Shake』『I can't turn you loose』の和声の響きやブルースのリズムを聴き取り、そのよさや面白さなどを感じ取りながら聴いている。【鑑①—鑑賞】(ワークシート)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○『I can't turn you loose』を伴奏に合わせて楽器で演奏する。 ・テーマ1、テーマ2を弾けるように練習する。 ・リズムの自動伴奏、教師の低音伴奏に合わせて合奏できるようにする。 			○		①リズム伴奏・低音伴奏に合わせて演奏している。【技①—器楽】(演奏の聴取)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○『こげよマイケル』は「問いと答え」の形式の曲であったことを想起し、「問いと答え」の形式でつくられているほかの曲を鑑賞し、「問いと答え」の形式にはいろいろな種類があることに気付く。 ・曲を鑑賞し、どのような「問いと答え」になっているか話し合う。 <p>『大きな歌』『Oh happy day』『あまちゃんオープニングテーマ曲』『中国の踊り』</p>				○	②「問いと答え」を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら特徴を理解して聴いている。【鑑②—鑑賞】(ワークシート)

5	<p>○『I can't turn you loose』の中間部を「問いと答え」の仕組みを生かしてつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルース音階による教師の即興（2小節分）を鍵盤ハーモニカで模倣する。 ・教師の問いの旋律に対して、答えの旋律を即興的につくって答える。 ・3～4人のグループで、中間部12小節を2小節ずつ担当し、「問いと答え」の仕組みを生かして演奏する。 		○		<p>①「問いと答え」の音楽の仕組みを生かし、どのような「問いと答え」の音楽にするかについて自分の考えや思いをもっている。【創①—音楽づくり】（ワークシート）</p>
6 （本時）	<p>○『I can't turn you loose』の中間部の旋律を和音の響きの移り変わりに気を付けて工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間部12小節の和音の響きの移り変わりをよく聴き取る。 ・教師のモデル演奏を聴き、和音の響きの移り変わりを生かして旋律をどのように工夫しているか考える。 ・和音の響きの移り変わりを生かすように自分たちの考えた旋律を工夫する。 	○	○		<p>②和声の響きを生かしながら旋律をつくる学習に意欲的に取り組もうとしている。【関②—音楽づくり】（観察）</p> <p>②和声の響きを聴き取り、その働きが生み出す音楽の盛り上がりを感じ取りながら、どのように音楽をつくるかについて意図や見通しをもっている。【創②—音楽づくり】（ワークシート）</p>
7	<p>○『I can't turn you loose』を自分たちが考えた中間部を入れながら、通して合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間部を鍵盤ハーモニカのほかに木琴などのほかの楽器で試し、音色を選ぶ。 ・自分たちが考えた中間部を入れて、全曲通して合奏を楽しむ。 	○	○		<p>③自分たちが考えた中間部を入れて全体を通して合奏する学習に意欲的に取り組もうとしている。【関③—器楽】（観察）</p> <p>②和声の響き、「問いと答え」の仕組みを生かし、見通しをもって演奏している。【技②—音楽づくり】（演奏の聴取）</p>
8	<p>○『コラール』を和声の響きの移り変わりを感じ取りながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱の旋律の音の動きや響きに気を付けて聴く。 ・低音の旋律に気を付けて聴く。 ・混声合唱とオーケストラによる響きの豊かさや和音の響きの移り変わりを味わって聴く。 			○	<p>③『コラール』の和声の響きの移り変わりを感じ取りながら聴いている。【鑑③—鑑賞】（ワークシート）</p>

6 本時の学習（全8時間、本時6時間目）

(1) 本時のねらい

和音の響きの変化によって音楽に盛り上がりが生まれることについて、和音伴奏を聴いて和音の響きの移り変わりを聴き取り盛り上がりを考えたり、教師のモデル演奏を聴いて工夫を感じ取ったりする活動を通して、盛り上がる場所やそれを生かす方法に気づき、自分たちがつくった音楽を和音の響きの変化による盛り上がりを考えながら工夫することができる。

(2) 本時の構想

①目指す児童の姿

和音の響きの移り変わりによって生まれる盛り上がりを感じ取り、その盛り上がりを生かすように自分たちのつくった旋律を見直し、中間部12小節の始め・中・終わりで旋律の音の高さを変えたり、トリル（2音を交互に速く弾く）・グリッサンド（鍵盤をすべるように弾く）などの印象的な演奏方法を入れるなどの工夫を考えている。

②本時のねらいを達成するための手だて

本時のねらいを達成するために、以下の手だてを講じる。

『I can't turn you loose』の中間部12小節の和音伴奏を聴き、和音の響きの移り変わりを聴き取り、それによって生まれる音楽の盛り上がりを考える。

和音が変化している所で手を挙げながら聴く。12小節を図で表し、和音で色を塗り分けたものを提示し、視覚的にも和音が変化している所が分かるようにする。そして、12小節の中で盛り上がりを感じるところはどこかを考えるようにする。

リズムと和音伴奏に合わせた教師のモデル演奏を聴き、盛り上がりを表現するためにどのような旋律の工夫をしているか考える。

盛り上がる場所がある、と感じ取ってもどのようにそれを旋律づくりに生かせばよいのかとまどう児童が多いと思われる。そこで工夫のヒントとなるように、モデル演奏を行う。教師が、12小節を始めは低い音で、盛り上がりに向かって高い音で演奏し、どのような工夫をしているか考えるようにする。今まで即興演奏などの中で出てきたトリルやグリッサンドなどの演奏方法を掲示しておき、盛り上がりを生かすための工夫のヒントとなるようにする。

(3) 本時の展開と評価

学習活動	主な教師の働き掛けと児童の反応	・指導上の留意点 ◇【評価】（評価方法）
1 『I can't turn you loose』のテーマ1, 2を合奏する。（1分）	○『I can't turn you loose』のテーマ1と2を合奏しましょう。 ・楽しくて元気のいい曲だ。 ・弾けるようになってうれしい。	・鍵盤ハーモニカで演奏する。
2 前時につくった中間部Bをグループごとに演奏する。（4分）	○みんなのつくったBの部分を入れて、曲の初めから通して演奏しましょう。 ・真似っこの「問いと答え」にしたよ。 ・リズムは同じで音だけ変えて答えるメロディーにしたよ。	・リズムと伴奏をあらかじめ録音しておいたものに合わせて合奏する。 ・3グループ程度の作品を取り上げる。

<p>3 今日の課題をつかむ。(5分)</p>	<p>○Bの部分の伴奏を和音の移り変わりに注意して聴きましょう。和音が変わった所で手を挙げましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは同じ和音だ。 ・ここで変わっている。 <p>○Bの12小節の中で、一番変化があって盛り上がると思う所はどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音が変わると感じが変わる。 ・9小節目のV7の所が一番盛り上がると思う。 <p>○「ここが盛り上がっているな」ということをメロディーをつくる時にも考えるとさらにすてきな音楽になります。今日は、みんなのつくったメロディーを工夫してさらにすてきにしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>盛り上がりを考えてメロディーをくふうしよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・和音の移り変わりがよく分かるようにリズム無しで録音したものを聴かせる。 ・12小節を和音によって色を塗り分けた図を提示し、視覚的にも和音の変化が分かるようにする。
<p>4 見通しをもつ。(5分)</p>	<p>○どのようにしたら和音が変化するところの盛り上がり表現できると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく分からないな。 <p>○私が演奏するので聴いてください。どのように工夫をしたと思うか後で聞くので、考えながら聴いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめの所は低い音だ。 ・最後の盛り上がる所は音が高くなっている。 ・音をだんだん高くしていく工夫をしたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム、和音伴奏に合わせて、教師がモデル演奏を行う。低音から始まり、盛り上がる部分は高音で演奏する。 ・掲示してある旋律づくりや演奏の工夫をヒントにするとよいことを伝える。
<p>5 グループごとに旋律の工夫をする。(20分)</p>	<p>○皆さんもどんな工夫ができるか話し合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生のやっていた方法を真似してみよう。 ・トリルを盛り上がる所に使ったらどうかな。 ・グリッサンドを使ったらどうかな。 ・はじめは音の動きを少なくしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような工夫をしているか分かるように、12小節をはじめ・中・終わりに分けて工夫のアイデアを書けるようなワークシートをグループに1枚用意する。
<p>6 発表する。(5分)</p>	<p>○発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛り上がりがうまく表現できるといいな。 ・前より良くなったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい工夫をしているグループを取り上げて発表させる。
<p>7 まとめ・振り返りをする。(5分)</p>	<p>○和音の響きが移り変わって盛り上がる所がよく表現できてきましたね。次の時間は、全部のグループから発表してもらいます。</p> <p>○今日、工夫したことをワークシートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当する部分の工夫のほか、友達が担当する部分について

		<p>てグループで話し合ったことについても記述させるようにする。</p>
<p><評価> ◇和声の響きを生かしながら旋律をつくる学習に意欲的に取り組もうとしている。【関②—音楽づくり】(観察) ◇和声の響きを聴き取り，その働きが生み出す音楽の盛り上がりを感じ取りながら，どのように音楽をつくるかについて意図や見通しをもっている。【創②—音楽づくり】(ワークシート)</p>		

7 参考文献

- ・坪能由紀子 監修『一人ひとりの表現を生かすⅡ 新学習指導要領にもとづく小学校音楽づくり7のアイデア集』教育出版 2010
- ・『季刊音楽鑑賞教育』 Vol.14 公益財団法人音楽鑑賞振興財団 2013

